

研究テーマ	言語活動を取り入れ、児童の発想構想の能力を伸ばすための教材の工夫 —第4学年 光に願いをこめて（行灯の製作）の実践を通して—
-------	---

茨城町立青葉小学校 教諭 郡山 真澄

I 研究テーマについて

4年生という学年は、描画表現における発達段階でいうと、写実的表現に興味を持ち始める時期である。そのため、それまで自由に描画表現を楽しんでいた指導が、これまでの表現に抵抗を感じ始める。

そこで、児童が自由にあるいは自信を持って発想をするための手段として言語活動を取り入れたいと考える。

II 研究の実際

1 題材名 光に思いをこめて（行灯の製作）

2 題材の目標

- 絵と言葉が組み合わされ一体になった表現に関心を持ち、表現することを楽しもうとする。
(関心意欲・態度)
- 自分の願いや大切にしているものを言葉に表し、それに合った絵をどのように表すかについて考えている。
(発想・構想の能力)
- 行灯にした時のことをイメージして、絵の配置や色の付け方を工夫して表している。
(創造的な技能)
- 自分や友達の作品を見て話し合い、絵と言葉の組み合わせやよさを感じ取っている。
(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

(2) (平成28年7月21日 4年3組32名調査)

- | |
|--|
| ○ 図工で好きな活動は何ですか。(複数回答可)
絵・・・26人 工作・・・28人 鑑賞・・・9人 |
| ○ 絵をかくの活動で楽しいことは何ですか?
① 自分のかきたい絵をかくこと・・・22人
② 絵の具で色をぬること・・・12人
③ クレヨンやクーピーで絵を描くこと・・・25人
④ 鉛筆やペンで絵をかくこと・・・16人 |
| ○ 絵をかく活動で苦手なことは何ですか。
① 何をかくか決めること・・・18人
② 上手にかくことができない・・・11人
③ 色を塗ると失敗してしまう・・・18人 |

本学級は絵を描くことが好きと答える児童がしかし、絵を描くときに「何をかいていいか決めることを難しいと考える児童もいる。自分の思いや考えたことを自由に表現することに抵抗があることが分かる。また、自分の表現に自信を持たず、手が進まない児童も見られる。また、描画材に関しても、鉛筆やペン、クレヨン等では楽しく表現することができるが、絵の具をまだ上手に使えず失敗してしまうと感じている児童も多い。

(3) 題材観

本題材は、絵と言葉で構成する行灯の製作を通して、自分の願いや大切にしているものを言葉で表し、そこから言葉に合う絵を考える方法で製作を進める。そこから文字にあった絵を表現する。最初に文字で表現することによって、自分の考えが明確になり、絵を考える時の発想の手助けになると考えられる。

(4) 指導観

最初に自分の大切なものや将来の夢などを考え、それを短い言葉で表現させる。その言葉を墨と絵と文字を一体感のある表現にするために習字用の筆で大きく文字を書かせる。絵の表現では、自分の思いを自由にのびのびと表現させるために、描画材をクレヨン、マジックペン、クーピーなど児童が抵抗なく表現できるものを選ぶ。

4 題材の評価規準

関心意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
絵と言葉が組み合わせられ一体になった表現に関心を持ち、表現することを楽しもうとする。	自分の願いや大切にしているものを言葉に表し、それに合った絵をどのように表すかについて考えている。	行灯にした時のことをイメージして、絵の配置や色の付け方を工夫して表している。	自分や友達の商品を見て話し合い、絵と言葉の組み合わせやよさを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	行灯の製作方法を知り、行灯に書く言葉と絵を考える。	・行灯の製作とその表現に関心を持ち、自分の願いを作品に表そうとする。 関【ワークシート・活動】
第2次 ①	行灯に言葉を書く。	・自分の願いや大切にしているものを言葉に表し、全体の構図を考えて言葉を書く。 発【作品】
第3次 ③	行灯に書いた言葉に合った絵を描き、行燈の組み立てをする。	・行灯にした時のことをイメージして、絵の配置や色の付け方を工夫して表している。 創【作品】
第4次 ①	友達の作品を鑑賞する。	・自分や友達の商品を見て話し合い、絵と言葉の組み合わせやよさを感じ取っている。 鑑【発表・ワークシート】

6 指導の実際

(1) 平成28年度第4学年図工 言語活動を取り入れた指導事例

学期	題材	活動
1学期	絵の具でゆめもよう[絵]	【鑑賞】 モダンテクニックを使い作った色紙をもとに、コラージュをして夢の世界を表現した。その夢の世界を友達同士で物語として発表し合い、鑑賞活動を進めた。
2学期	幸せをよぶカード[工作]	【発想・構想】 「自分の大切な人や好きな人に、幸せをよぶカードを送ろう。」というテーマで、誰にどのような場面で、どんな気持ちを持ってもらいたいか、をワークシートに書き、発想段階で表現意図を明確にして制作にのぞんだ。
3学期	光に願いをこめて(行灯の製作) [立体]	【発想・構想, 創造的な技能】 表現の中に、自分の願いをこめた文字とそれを表すための絵を一緒に表現することで、児童が自分の思いを明確にしなが自信を持って表現できるようにした。

(2) 行燈の製作



○ 描画材の工夫

本題材では、児童が自分の願いを抵抗感を持たずにのびのびと表現できるように、描画材にクレヨン、クーピー、マジックペンを選んだ。児童は、普段使い慣れている描画材なので、細かい表現もしやすく、失敗をおそれず自分の思いをのびのびと表現することができた。



○ 自分の願いを明確にして表現するための工夫。

自分の願いとそれを表す絵を対にして作品を完成させることで、自分の願いを明確にして表現の活動にのぞむことができた。普段、絵に表す時に何を描いていいか迷っている児童も自信を持って表現することができた。また、文字を表現の一部として取り入れることで、自分の願いがより鮮明に表現することができたようである。鑑賞活動の自分の願いの発表では、多くの児童が自分が作品に込めた願いを堂々と自分の言葉で発表することができた。



○ 製作方法の工夫

行燈の組み立てでは、児童が二人一組になって行燈の組み立てを行った。友達同士、協力し合って組み立てを行う中で、児童同士が自分の作品についてや友達の作品について、自然な会話の中で質問

したり、伝えたりという姿が見られた。このような会話を通して、会話という言語活動を通して、児童は自分の願いを再確認したり、他者に伝えたりとすることができた。この活動が自分が表現した願いをより強くして、鑑賞活動で自分の願いを堂々と発表するきっかけになったと考える。

III 研究の成果と課題

1 成果

本研究を通して、発想の段階で自分の思いをしっかりと言葉によって表すことで表現活動に自信を持つてのぞめることが分かった。さらに、表現の中に言葉を一体化させることで、作品に込めた思いがより強まることも分かった。よって、児童が自由にあるいは自信を持って発想をするための手段として、言語活動を取り入れることは有効である。

2 課題

今回は、言葉を作品に取り入れやすい表現活動だったが、今後は立体や工作の分野で児童が自分の思いを自信をもつてのびのびと発想、表現できるような方法を考えていきたい。